

# 私たち一人ひとりにできること



## Social Cohesion Guide

### みんな仲間

Social cohesion (社会的結束) を実現するため、私たち一人ひとりに果たすべき役割があります。人々が社会の一員としての帰属意識を感じ、ありのままの姿で社会に参画できるようにすることもその一つです。私たちの多くは、無意識のうちにそれを実践しています。隣り近所の人たちと顔見知りになったり、ボランティア活動や地域社会のイベントに参加したりすることが、社会への帰属意識と参画を促します。職場では、入社したばかりの社員をお茶や昼食に誘うことなどもSocial cohesion (社会的結束) の実現につながります。

家庭や学校・職場・スポーツチーム・教会をはじめ、語学学習や趣味の集まりでも帰属意識が生まれます。どんなコミュニティに属していても、ありのままの自分で何かの一員になり、帰属意識や仲間意識を持てることはうれしいものです。

私たち一人ひとりとは違って、多様性と異なる意見を尊重し、折り合いをつけて暮らしていきたいと願う気持ちは同じであり、大切にすべきものです。なぜなら、世の中には「ありのままに生きられない」「自分の意見を聞いてもらえない」と感じている人たちもいるからです。

国内に様々なコミュニティが確立され、社会の多様化が進む今、互いに相手の話を聞き、相互理解を深める必要があります。互いの相違点や長所を認識し、結束を強め、相手との距離を縮めることに励みましょう。

### 帰属意識

## – 具体的にはどんなこと？

あらゆる人が分け隔てなく暮らせる社会では…隣人をはじめ誰もがお互いを理解しています。職場で疎外感を感じることはありません。子どもたちも社会の一員であることを自覚しています。必要に応じて適切な助けを求めることができます。日常では接点のないような人とも気がねなく話ができます。差別的な言動には異議を唱えることができます。自分の出自や慣習などを臆することなく他者と共有できます。緊急時には、あらゆる人が考慮され、誰ひとりとして見過ごされることはありません。

## 帰属意識を育てる

# － 私たちにできること

より多くの人々が帰属意識を持ち、多様性を享受し、他者を信頼して積極的に関与し合い、連帯感と相互尊重を実感できようにするためには何ができるでしょう。

### みんな仲間

- 差別的な態度や政策・慣行を特定し、対処する。
- 人々や組織の意識を向上する。
  - － 差別的な態度をとる人に対して、勇気ある対話を試みる。人権委員会の公式サイトに掲載されている資料([Responding to Racism「人種差別への対応」](#))などが役立つ。
- 人々や組織の意識を向上する。
  - － 差別対策に関する研修を組織や地方公共団体の内部、又はNGO団体を通じて計画し、そこで学んだことを家族や友人、同僚と共有する。
- 差別反対を支援するために改正が必要な法律・規則・政策について考える。
  - － 公の協議に政策や法律・規則に関する意見書を提出する。

### 多様性の享受と相互尊重の実現

- 職場や組織における差別対策の策定・運営に必要な資金があるかどうか、調達できるかどうかを考え、その申請方法を調べる。

### 連帯感

- 包括的な社会的規範を共同開発し、推進するためのリーダーシップを示す。
  - － リーダーは職場の責任者である必要はない。同僚や友人・知人などの多様な社会貢献を公然と評価し、建設的なリーダーシップを示す。当事者のことを話題に取り上げて、その功績を称える。あるいは当事者の体験発表から学ぶ機会を設ける。
- 多様なコミュニティとの対話の機会を創出し続ける。
  - － 近くに引っ越してきた人に声をかける。異なるコミュニティの人と知り合いになる。地元で開催されるイベントやオンライン・ワークショップ、Huiなどに出会いのチャンスがある。

- 様々なコミュニティの意見を取り入れ、政策を共同開発する。
  - 政策立案者は、確固たるエンゲージメント計画を策定するため、[DPMC Policy Project](#) (DPMC政策プロジェクト) の公式サイトに掲載されている資料の利用を検討する。
- 自分とは異なる文化やアイデンティティーの理解を深める。
- 食事などを共にしながらご近所づきあいを深めるNeighbours Dayを企画する。

## 参画

- 様々な地域社会の活動に参加し、強い信頼関係を築いて維持する。
- 地域社会で開かれるイベントや祭事に参加し、それらについての情報を集める。地域社会の様々な活動に関する情報は、Neighbourly、EventFinda、地元紙などで確認できる。
- ニュージーランドの歴史とTreaty of Waitangi (ワイタンギ条約) に関する知識や、Te Reo me ngā tikanga Māori (マオリ語) への理解を深める。
- 無料オンライン・アプリ (Kōrerorero、Kupu、Ako Tahi) などを利用してTe Reo (マオリ語) を学ぶ。Te Wānanga o Aotearoaのコースに申し込む。地元の博物館の歴史展示を見学する。公共図書館からニュージーランドの歴史に関する書籍を借りる。

